

下町文化

第 193 号

平成10年4月15日

発行

江東区教育委員会
生涯学習部生涯学習課



絹本着色釈迦十六善神像(長慶寺)



石造燈籠(富岡八幡宮)

登録文化財 986 件に!!

絹本着色釈迦十六善神像を指定

江東区教育委員会は、文化財保護審議会（会長吉原健一郎・成城大学教授）から登録・指定文化財の答申を受け、新たに25件を登録、1件を指定し、このほか無形文化財（工芸技術）について5名を認定解除、指定文化財1件につき追加指定をしました。この結果、登録文化財は986件に、指定文化財は13件になりました。

今回、答申を受けた登録文化財は、有形文化財13件、無形文化財1件、有形民俗文化財5件、史跡6件で、有形文化財（絵画）のうちから1件が指定文化財になりました。このほか無形文化財（工芸技術）5名が保持者認定解除になり、また指定有形文化財（建造物）で追加指定が1件ありました。

このうち史跡が6件登録されましたが、そのなかで坪井信道日習堂跡と桑田立斎宅跡は、江戸時代末頃の深川が蘭学のメッカの一つであったことを示すものです。

蘭学といえば、杉田玄白らが翻訳した『解体新書』（安永3年へ1774）があまりにも有名ですが、本格的な蘭学は、享保・元文期（1700年代前半）に、将軍吉宗がと

つた実用的科学・技術を導入する政策方針により大きく前進することになります。

美濃国出身の坪井信道は、文政3年（1820）に江戸に出て、宇田川榛斎に師事して蘭医学を修めた蘭方医です。同12年に三好町で安懐堂を開塾し、その後天保3年（1832）になって冬木町に移転し、日習堂を開いています。

同時代の伊東玄朴や戸塚静海とともに三大蘭方医と称された信道は、西洋医学にもとづく診断法の大要をはじめで紹介するなど西洋医学書の翻訳に努めたほか、多くの塾生に蘭学を教えています。大坂で適々斎塾を開いた緒方洪庵、萩藩の藩医となり西洋兵学の紹介をした青木周弼、西洋理化学の紹介と実用化に尽くし

た川本幸民など、幕末に活躍したそうそうたる蘭学者たちが日習堂で学びました。

越後国出身の桑田立斎は天保4年に坪井信道に師事した一人でした。

立斎は日習堂の書生部屋に住み込んで勉強に励み、同13年には海辺大工町に医院を開き、人痘接種法による種痘治療を始めます。そして嘉永2年(1848)には、牛痘種痘の痘苗を手に入れ、牛痘による種痘治療を実施しています。

痘瘡は昭和54年にWHOにより撲滅宣言が出されましたが、それまでは致命率の高い病気でした。1798年、イギリスのジェンナーが牛痘種痘法を開発し、その効果が認められてから急速に世界に広まり、痘瘡の治療は大きく進みます。日本に移入されたのは嘉永2年になってからでした。

立斎が牛痘苗の伝来品を得たのは最も早い時期で、それを可能にした蘭方医のネットワークと立斎の痘瘡への危機感とその治療に対する情熱がうかがわれます。また立斎は、安政5年(1858)の種痘所設立に関わるなど、熱心に種痘治療とその普及に尽くしました。

指定文化財

新規指定【有形文化財(絵画)】

絹本着色釈迦十六善神像

森下2-22-9 長慶寺

追加指定【有形文化財(建造物)】

旧大石家住宅北面下屋

南砂5-24地先 仙台堀川公園内

登録文化財

【有形文化財(建造物)】

石造燈籠 寛文8年在銘

深川2-22-11 寒光寺

石造燈籠 深川浜常燈講奉納 一對

富岡1-20-3 富岡八幡宮

富岡八幡宮の参道中程に建っている燈籠です。総高は350cmあまりと大きなもので、明治45年(1912)3月に深川浜常燈講の人たちにより奉納されました。石質は花崗岩で、ほぼ完形で残っています。

深川浜は、深川の漁師たちの集まりで、大正10

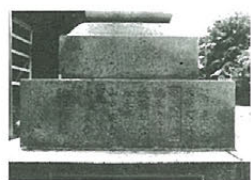
年頃には、蔵の町である佐賀

町や材木問屋・

川並衆の木場

とともに深川

睦会を結成し



石造燈籠の銘文

ていたことが知られ、富岡八幡宮を支えていました。現在は、かつての

深川漁業組合の有志が昭和30年代

後半に深浜保存会を結成し、燈籠を

守っています。

石造鳥居 昭和9年在銘

富岡1-20-3 富岡八幡宮

石造鳥居 昭和9年在銘

富岡1-20-3 富岡八幡宮

石造燈籠 明治35年在銘 一對

亀戸3-6-1 亀戸天神社

明治35年(1902) 菅公千年

祭を記念して本所松代町1-2丁目

(現墨田区江東橋4のうち)より奉

納されたもので、昭和2年(1927)

に修理を受けています。太鼓橋

の手前に位置し、左右とも総高が

500cm近くある、大型の燈籠です。

【有形文化財(絵画)】

絹本墨画淡彩虎十二態図 岸駒筆

四曲一隻・六曲一隻・軸二幅

附 木箱 一合

森下2-22-9 長慶寺

【有形文化財(彫刻)】

石造狛犬 一對

富岡1-20-3 富岡八幡宮

【有形文化財(古文書)】

森家文書 277点

辰巳1-3-22 森 良治

【有形文化財(歴史資料)】

板碑

深川2-22-11 寒光寺

寒光寺中庭に

建てられています。

地上高は

65.8cm、幅(最

大)は53cmです。

正面中央に種子

(キリコク・阿弥陀仏)と蓮華座お

よび框座が刻まれています。

この板碑は、右側が欠損していま

すが、框座や、右端に種子の一部が

確認できることから双式板碑である

ことがわかります。その形態により

房総半島にみられる下総板碑と考え

られます。

園女歌仙桜之碑 昭和6年在銘

富岡1-16-10 深川公園

鳥居(残欠) 昭和12年在銘

富岡1-20-3 富岡八幡宮

弘法大師道敷石寄附記念碑

明治38年在銘

北砂4-22-6 持宝院

浅間神社修築記念碑 明治30年在銘

南砂7-14-18 富岡八幡宮

【無形文化財(工芸技術)】

仕舞袴製作

深川2-17-2 杉浦武雄



〔有形民俗文化財〕

水盤 小倉藩宮本源兵衛興根奉納

三好 1—7—7 正覚院

百度石 大正12年在銘

富岡 1—20—3 富岡八幡宮

西国坂東秩父百番所巡拝塔

並木浅右衛門奉納

大島 8—38—32 宝塔寺



観音信仰に基づく西国・坂東・秩父百番札所巡礼の成就を記念して、

宝暦8年(1758)並木浅右衛門により奉納されたものです。墓地内にあり、総高は108cmです。正面上部に阿弥陀三尊の種子が陰刻されています。

百度石 昭和3年在銘

北砂 4—25—15 亀高神社

出羽三山碑 村井鍋次郎奉納

南砂 7—14—18 富賀岡八幡宮

〔史跡〕

桑田立斎宅跡

清澄 2—13 付近

松旭齋天一墓

白河 1—3—32 靈巖寺

坪井信道日習堂跡

冬木 22 深川第二中学校

洲崎御葉草御植付場跡

牡丹 3—33 付近

金刀比羅神社跡

古石場 2—15

占風園跡

亀戸 6—8—10・17—22

『葛西志』によると、占風園は寛文期(1661—1673)に造られ、元禄期(1688—1704)に修築を受け景勝が整えられたといえます。広大な「釣月池」を中心に、周囲に築山、橋、茶屋をめぐらした回遊式の庭園で、その景色を題材とした漢詩や和歌も詠まれました。享保5年(1720)には將軍吉宗が鷹狩の際、雨宿りに立ち寄っています。また文化9年(1812)には藤原祐壽が占風園の四季の図を描いており、その美しい風景の様子をよく伝えています。

刺繍 石島 6—14 石井靖子

富岡 1—26—20 山崎喜作

木型(鑄造) 製作

新大橋 3—8—3 井上 明

竹工(釣竿)

森下 5—16—10 菅野銑太郎

漆工 石島 24—3 前田千代松

(解除理由) 死亡のため

追加指定

有形文化財(建造物)

名称 旧大石家住宅北面下屋

所在地 南砂 5—24 地先

仙台東川公園内

平成6年の旧大石家住宅解体調査時に、母屋北面の側柱上部の痕跡から、薪などの一時保管場所として下屋底がついていたことが確認されました。旧大石家住宅を建築当初に近い姿で後世に伝えるため、平成9年12月に下屋を復元しました。



占風園四季図(部分)

指定文化財紹介

有形文化財(絵画)

名称 絹本着色釈迦十六善神像

所有者 長慶寺(森下 2—22—9)

本像は、本紙を幀貼り装にしたものです。本紙は縦114・8cm、横57・3cm。表装は縦138・9cm、横73・9cmです(一面写真参照)。

釈迦十六善神像は、鎮護国家・除災招福のため宮中や諸大寺において行われた「大般若経」を転読する大般若会の本尊として祀られ、仏画としては基本的なものとされます。

画像は、蓮座に坐る釈迦如来を中心に、その左右に獅子に乗る文殊菩薩と白象に乗る普賢菩薩、法涌菩薩と常啼菩薩、笈を背負う玄奘三蔵と鬼神形の深沙大将を対にして並べ、その外側に十六善神を二分して配置しています。十六善神とは、「大般若経」およびその経の受持者を守護する十六種の神たちです。

本像は、力強い描き方、仏神の大振りな造形や動的な姿態などから桃山時代後期から江戸時代初期のものと推定されます。中世にまでさかのぼる作例がほとんどみられない区にとつて貴重な作品といえます。

おしらせ

第14回

文化財保護推進員講習会

教育委員会生涯学習課文化財係では、区民の皆さんに区内の文化財を知っていただき、一緒にその保護を進めていただく地域リーダー養成のために、文化財保護推進員講習会を開催します。

ひとりで文化財といっても、種類は多岐にわたるため、博物館見学、史跡めぐり、拓本の実習など講習会の内容は豊富です。地域の歴史と文化財に興味のある方は、この機会にぜひご参加ください。

全23回 毎週水曜日
午後6時30分～8時30分

会場 江東区教育センター

*講義内容により会場・曜日を変更する場合があります。

対象 区内在住の方

受講料 無料(教材費は自己負担)

申込 往復はがきに、住所・氏名・

年齢・電話番号および「文化財保護推進員講習会」と明記

のうえ、4月20日(必着)までに左記へ申込んでください。

定員 30人(申込多数の場合は抽選)

◇申込・問合先

〒135-8383 江東区東陽4-11-28
生涯学習課文化財係

(3647) 9111
(内) 3362

期間 5月6日(水)～12月2日(水)

砂村囃子睦会会長

埴正敏さん逝く



「砂村囃子」(区指定無形民俗文化財)を保存継承する砂村囃子睦会会長の埴正敏さんは、去る3月7日に急性肺炎のため藤崎病院で亡くなられ

ました。88歳でした。

埴さんは昭和39年の睦会結成当初からの会員で、会長を長く務められ、当区の民俗芸能の発展にご尽力されました。ここに心より感謝いたしますとともに、慎んでご冥福をお祈り申し上げます。

芭蕉記念館から

企画展 山鹿文子の芭蕉の世界

— 布絵に賭ける人生 —

今年傘寿を迎えた布絵作家・山鹿

文子氏創作の『おくのほそ道』の世

界。端切れをも

とに布を貼り込

む手法の布絵と

書で、芭蕉文学

の魅力を描き出

します。作品は

『おくのほそ道』

を中心に、深川芭蕉庵での生活など、あわせて76点を展示します。

期間 5月2日(土)～5日(祝)

開館時間 午前9時30分～午後5時

(入館は午後4時30分まで)

会場 芭蕉記念館1階会議室

入館料 大人 100円

小・中学生 50円

(常設展を含む)

ジュニア俳句教室

日時 5月9日(土)午前9時30分

(集合9時20分)

会場 2階研修室

内容 俳句をつくってみよう

対象 区内在住の小学生30人

(先着順)

費用 無料(筆記用具持参)

締切 開催日の前日

申込 窓口または電話で

◇芭蕉記念館

江東区常盤1-6-3

(3631) 1448

伝統の技 実演公開

毎月第一・第三日曜日に工匠番

館(森下文化センター内)で行って

います職人さんの今後の実演日程は

次のとおりです。

5月3日 漆工 近藤 良市

5月17日 提燈制作 杉田 礼一

*時間はいずれも午後1時～3時

旧大石家住宅から

鯉のぼり・五月人形を飾ります

旧大石家住宅では、4月24日(土)

から5月11日(日)までの期間、端

午の節句にち

なで、区民

の方から寄贈

された鯉のぼ

りと五月人形

を飾ります。

土・日・祝日

が公開日です。

